石毛宏典、松沼博久…レジェンドたちが続々乗車　“夢の電車”で何が行われていたのか

文春野球コラム ペナントレース2022

小笠原 聖

2022/07/15

genre : エンタメ, スポーツ

コメント

0

47

1

コピー

「仕事の相談です。6月の西武―巨人戦で、池袋から球場までの電車内でOBのトークイベントを開催する事になりまして、アナウンサーを集めています。興味がありましたら連絡をください」

仕事仲間のアナウンサーからこんなLINEが届いたのは、開幕間もない4月1日の事だった。

「4月1日」だけに一瞬「？」が浮かんだが、そんなウソをつくような人ではない。しかも引っかかったのは、「池袋から球場までの電車内」という箇所だった。

Ads by Google
フィードバックを送
広告表示設定

トークイベントをするなら、通常の電車ではなくイベントのための臨時列車を走らせるという意味だろう。普段乗れない臨時列車に、仕事として乗れる！　私は嬉々として二つ返事でOKした。

普通に考えれば、「OBとのトークイベント」というところにまず食いつきそうなものだが、私は大の鉄道好きだ。

臨時列車に乗れる→しかも仕事で乗れる→さらに野球の仕事で乗れる――という順で嬉しさがこみ上げてきた。

早速OKの返事をすると、「じゃあ、詳細については角盈男さんから連絡が行きます」との返答。角さ

＜西武―巨人の交流戦の3日間、池袋駅から西武球場前駅まで臨時電車を運行する。10両編成の1号車から10号車まで、それぞれの車両にOBとアナウンサーが乗って約1時間のトークをする＞

それが角さんから最初に聞いた内容だった。

初日に参加した松沼博久（左上）、鹿取義隆（右下）らレジェンドたち　©(株)クイック

この記事の画像（5枚）

石毛宏典の叱咤激励

てっきりOB1人とアナウンサー1人で全車両のお客さんに向けてトークショーをするのだと思っていたが、なんというスケールの大きな企画！　そして、こんな壮大な企画が本当に実現できるのだろうか？正直、プレスリリースが出されるまで半信半疑だった。

それでも話は進み、迎えた「レジェンド・エキスプレス・ツアー」初日の6月7日。待ち合わせ場所は、西武池袋線の池袋駅の＜西武南口＞。東口の大きな広場や「よく当たる」と有名な宝くじ売り場がある＜西武口＞や、西武百貨店の地下1階すぐそばの＜東口＞ではなく、まるで“裏口”のように知る人ぞ知るという場所にあるのが＜西武南口＞だ。

他に比べるとあまり知られていないこの改札に、有名な人たちが次々にやってきた。西武OBは、石毛宏典さん、松沼博久さん、平野謙さん、西崎幸広さん。巨人OBは定岡正二さん、鹿取義隆さん、角盈男さん、槙原寛己さん、岡崎郁さん、村田真一さん、鈴木尚広さん（一部の方は、1日あるいは2日のみの参加）。

最新情

控室に集合したレジェンドとアナウンサーたち　©(株)クイック

15時3分の発車時間前、まだまだ新しい40000系車両が池袋駅に滑り込むと、それぞれの号車にスタンバイしたOBの皆さんと我々アナウンサーが号車ごとに皆さんを「お出迎え」するところから始まる。通常のロングシート（横に長い座席）としても使われる40000系を、クロスシート（特急電車のように、2席×2列にして正面を向く形。S-TRAINや拝島ライナーで使用）にして、その正面に我々が立ち、いわゆるバスガイドさん状態でトークを展開するのだ。

僕は1日目と2日目は石毛宏典さんと、3日目は松沼博久さんとご一緒する事になった。初日、事前に個別の打合せもあったが、石毛さんはテレ玉の中継でもご一緒している。「打合せは無くていいよね？任せるから」「はい！」この会話だけで打合せは終了した。

サービス精神旺盛の石毛さんは、我々の号車のチケットを買ってくれた参加者が乗り込むやいなやエンジン全開だ。本来の流れであれば、電車が池袋駅を発車するタイミングで10号車の車掌マイクから角さんが「プレイボール！」のアナウンスをして始める事になっていたのだが、目の前にお客さんが来ると、石毛さんはもう待っていられなかった（笑）。

吊り革を握って軽快にトークする石毛宏典（左）と小笠原アナ　©(株)クイック

SPEC
PRES
週刊文
アンケ
週刊文
＆プレ
中尾彬
音”とは
する資
ント】

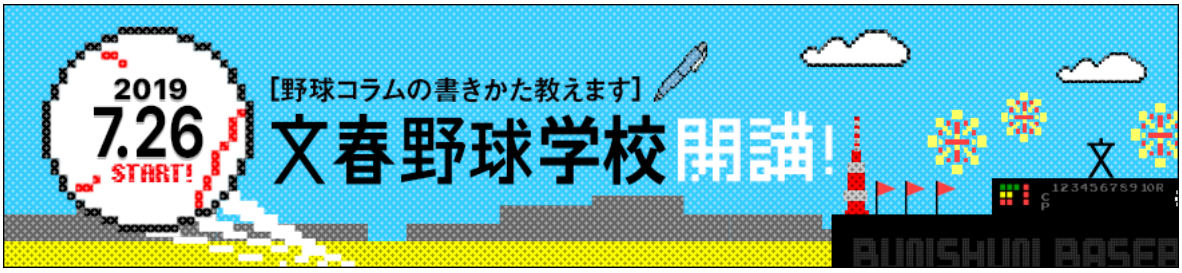
トークの内容は、元々プロを目指していなかった石毛さんが西武に入団するまでのご家族との会話、広岡監督時代の厳しい練習の話などなど。

なかでも一番熱がこもっていたのは、今のライオンズへの叱咤激励だった。特に駒澤大学の後輩でもある若林楽人には、「すごく買っているのよ〜。今日は絶対に打つ！　みんなで応援しよう」とエールを送る。するとこの日のゲームで若林が巨人相手に逆転2点タイムリーを打ったのだから、石毛さんの思い、恐るべしだ。

次のページ 西武ならではの「野球×鉄道」の強み

1 2

文春オンラインのニュースをお届け
最新のニュースを見逃さない。プッシュ通知をオンにして受け取れます。
通知を受け取る　受け取らない



関連記事

「今日ダメだったら次はない」プロ19年目、西武・内海哲也が今でもプレーできる理由

「ドームのなかに雨が降る」西武の本拠地・ベルーナドームで見つけた、地球にとって大切なこと

価値ある“敗北”を手に帰国　秋山翔吾に今こそ伝えたい「おかえり」&「がんばれ」

「ナツオくん、凄いよね」球界最小164センチ、西武・滝澤夏央が故郷の新潟から託された夢

「中日ファン、西武ファンにありがとう」小川龍也がメキシコでした“引退という決断”

永山瑛太も絶賛した「日本のブランドらしい」鯖江のメガネメーカーの実力

PR（シャルマン）

「街をつくった責任がある」少子化、空き家、高齢化…郊外型の戸建て住宅地にダイワハウスが提唱する街の「再耕」とは

PR（大和ハウス）

イケア・ジャパン、ケンタッキー・フライド・チキンが提案する最強の「顧客体験」

PR

今、あなたにオススメ

石毛宏典、松沼博久…レジェンドたちが続々乗車 “夢の電車”で何が行われていたのか

文春野球コラム ペナントレース2022

小笠原 聖

2022/07/15

genre : エンタメ, スポーツ

コメント

西武ならではの「野球×鉄道」の強み

3日目の松沼兄やんさんとは、入団1年目に「ほとんどキャンプらしいキャンプをしないでシーズンに突入して新人王を獲得した」話や、ライオンズへの愛情のあまりに放送中に感涙したエピソードなどで盛り上がった。

西武のレジェンドを迎えて“野球アナ”としてそんな話で盛り上がった一方、“鉄ちゃん”として気になって仕方なかったのは「今、どの辺を走っているんだろう?」という事だった。池袋駅から西武球場前駅まで、所要時間は1時間と少々。通常の所要時間よりは、かかる。というのも臨時電車なので、通常の運行ダイヤの間を縫って走るのだ。

途中の保谷駅で20分近く停車して各駅停車に抜かされたり、所沢駅を通過したりと、普段は経験できない体験にテンションが上がる（←鉄道好きにとっては）運行スケジュールなのだ。

コピー

今までも様々な企画列車を走らせてきた西武鉄道。ましてやライオンズの試合終了時間に合わせて巧みにダイヤを組める「ナイターダイヤ」も実施しているわけで、野球と鉄道が連携できる西武の「強み」をこんなところにも感じた。

もっとも、他の車両の（鉄道に興味の無い）アナウンサーの皆さんは、「所沢を過ぎたら、話のまとめに入ろう」と思っていたところ、その所沢を通過してしまったので、終点まであと2駅の「西所沢」で停車するまで気付かず、かなり焦ったそうだ。

究極の「レジェンド・エキスプレス」

道中ではOBのサイン入り記念品をお渡ししたり、記念撮影をしたりと、あっという間に時間は過ぎていった。中には、石毛さんや松沼さんに是非みてもらいたいと、30年以上前の応援グッズや写真を持ってきていた人もいた。

そんな皆さんにライオンズとの出会いを聞くと、「西武線の沿線に引っ越してきてからライオンズのファンになったんです」という声が多かった。なので、レジェンドへの質問の中には「西武線沿線でどこが好きですか？」「試合の時に電車を使った事はありましたか？」など、野球よりも西武線そのものに寄った質問まであった。それだけライオンズが地域、とりわけ西武線沿線に根付いている証拠である。

西武球場前駅に到着した後は各号車ごとに、レジェンドOB全員と記念撮影が行われた。

以上で「レジェンド・エキスプレス・ツアー」の日程は終了・解散となり、試合を観戦する人たちは改札を抜けてベルーナドームの中へ。今回の列車は西武球場前に16時過ぎに到着、16時30分には解散となったので、皆さん余韻を楽しみながらゆったり入れた事だろう。

一方で参加したレジェンドはというと、その直後の16時33分に西武球場前を出発する西所沢行きに間に合うように、「この次の電車は51分だってさ！　乗るぞ～！」と1番ホームへ急いでいた。

球場に向かう人を吐き出した折り返しの「各停・西所沢行き」に、レジェンドの皆さんが、しかも今度は同じ号車に向かい合わせで座っている。ここが究極の「レジェンド・エキスプレス」になっていたのは、言うまでもない。たまたま乗り合わせていた人は、どれくらい気付いていたのだろうか？

ちなみに今回のイベントの中心として動いてくださった角さんによると、これを機に、PBL（プロフェッショナル・ベースボール・レジェンド）として、今後もこういった企画をどんどん進めて行きたいとのこと。僕もこのような機会があれば、是非参加させて頂きたいと思う。

鉄道と野球、愛する2つの魅力を同時に味わえた「鉄っちゃんアナ」にとって、まさに夢の時間でした。

控室でもレジェンドたちと楽しいトークで盛り上がった　©小笠原聖

◆◆◆

この記事の写真（5枚）

HIT!

この記事を応援したい方は上のボールをクリック。詳細はこちらから。

1 2

小笠原 聖

著者の記事一覧を見る

ツイッターをフォローして最新記事をいち早く読もう

文春野球をフォロー

文春野球コラム